**審判講習会（２級新規）参加者　事前資料**

**１ アンパイヤーの心得**

アンパイヤーは、プレーヤーに信頼されるとともに、観衆に好感をもたれることも必要である。

そのためには【審判規則第７条】を心得ておかねばならない。

**２ 審判員留意事項**

**（１）判定区分**

【審判規則第８条】に基づく。線審をつけない場合は、その判定区分は正審が判定する。

**（２）正 審**

１）マッチ開始前にネットの高さ（サイドラインの上で1.07ｍ）、ライン､コート周辺の状況確認

２）ユニホーム、ゼッケン等について大会要項に沿ったものであるか確認

３）マッチ中は審判台の上でマッチの進行を担当し、定められた判定区分を判定するとともに、他のアンパイヤーの判定を確認した後、明確にコールする。

４）スコアボードの表示が正しいかどうか確認しながら進行する。

５）採点票は落ち着いて正確に記入する。

６）カウントのコールの時機は１つのポイントが終わり、サーバーが次のサービスの用意ができレシ

ーバー２人の用意ができたことを確認した時で、早すぎても遅すぎてもいけない。

７）正しいコールをする。もし、コールを間違えた場合は、「コレクション」とコールして正しいコー

ルをする。

８）サービスが行われようとしているときは、サービスするプレーヤーの足元に注意する。

（フットフォールト）

９）ネットにかかったフォールトは、必ず「フォールト」とコールする。コールがないと次の動作に移

れない。第２サービスは成立しない。

10）自分の判定区分のボールがアウトかインか確信が持てない場合は、落下点の痕跡を確かめてから

判定して差し支えない。この場合、正審は副審に依頼してよい。（副審が判定に迷う場合は、審判台

から降りて痕跡を確かめて判断してよい。）

11）他のアンパイヤーの判定区分の失ポイントとなることでコールを要するものについては、担当ア

ンパイヤーがサインしたものを、正審は正審のコールとしてコールする。

12）プレーを連続的に行わなかったり、マッチの進行に支障を与える形でパートナーとの打ち合わせを

したりするプレーヤーには「レッツプレー」のコールにより注意する。それでもプレーに入らないと

きは、イエローカードを与えることになる。（解けてもいない靴ひもを勝手に直す行為等）

13）プレーヤーに突発的な身体上の故障が生じ、プレーの継続ができなくなった場合、タイムの要求は

同一人が１回につき５分以内とし、同一マッチ２回までは認める。以後の要求又は許容時間内に回復

できなかった場合は棄権とし、相手方の勝ちを宣告する。（タイムアップゲームセット）

14）プレーヤーに対するコーチは、サイドのチェンジ（ファイナルゲーム中を除く）の場合及びファイ

ナルゲームに入る場合にのみ認められる。その他のコーチングに対してはイエローカードを与える。

15）観衆または応援者などが騒がしくてマッチの進行に支障がある場合は、直接注意を喚起し必要が

ある場合は、大会委員長に連絡し対処を依頼する。

16）プレーヤーが使用しているラケットのストリングの張り方が特殊で、ボールに特別の影響を与え

ていると見受けられる場合は、正審がレフェリーに判断を要請する。（振動止め含）

17）マッチ終了後の「挨拶」が終わり勝者チームの監督に勝者サインをもらい、プレーヤーが解散して

対戦は完全に終了したものとする。正審は、採点票をコート主任に引き継いで、その対戦に対しての

任務が終わる。

**（４） 副 審**

１）マッチの開始前、コートの状況、ボールが選択されたものであるか、そのバウンドが適切であるかどうかを確認する。

（ボールのバウンドは、マッチを行うコートにおいて1.50mの高さから故意に力を加えることなく

落下させた場合、コート面で弾んだ後の最高到達点がボールの下端で70㎝～80㎝までの範囲）

２）マッチの進行中は常にボールの行方とプレーヤーに注意を払い、動作を機敏にする。

３）正審のコールが正しいかどうかに注意を払い、誤っていたらタイムを取って訂正を促す。

４）定められた判定区分のイン、フォールト、アウトの判定をするとともに、正審を助ける。

５）常に正審と連携を密にし、プレーに支障となることが発生したら正審にタイムを求める。必要に応

じ、サイドのチェンジのときに正審と打ち合わせや、アイコンタクトを図る。

６）サービスの判定の位置は、自分に近いサービスコートの場合はレシーブするプレーヤーの邪魔にな

らないようにサービスラインの仮想延長線上でサイドラインからやや遠目（約２ｍ）で判定を行う。

反対側遠い方のサービスコートの場合は、サービスラインの仮想延長線上でサイドラインのより近

いところで判定するように心がける。

７）サービスの判定する位置に着いたら、気を付けの姿勢で、正審のコールで構えの姿勢に入る。

８）サービスの判定後は、速やかにネットポスト後方約６０ｃｍの定位置に移動し、直立してラリーを

見守る。（図参照）

９）イン、フォールト、アウト以外のその他の判定区分（レット、チップ、ネットタッチ、タイム等）

に対してはサインと共にコールを行う。

10）その他の判定区分で、失ポイントに該当する行為の場合は、片手で該当行為を行ったプレーヤーを

指差してコールにより指摘する。（該当するサイド側の手で行う。）

11）自分の足元の判定には特に注意すること。（ネット近くのライン際に落ちたボレー等）

12）アウトの場合は、ボールの落下点に正対して注目し、掌を内側に向け、指を伸ばしコートに対し外

側の手を上にまっすぐ挙げる。

13）ベ一スライン上の判定はしないが、落下点は確認しておくこと。トラブルが起こった場合は、正審

の指示を受けて落下点に行って確認し、その場でサインはせず、審判台の正審のところへ行き報告す

る。

14）フォールトでネットにかかったものはサインをしない。インに対しては、原則としてサインをしな

い。

15）サイドのチェンジや次のポイントまでの待機のときは、足を揃え、手を後ろや前で組んだりせず体側につけ、指先は自然な形で伸ばした姿勢を取る。（休めの姿勢にならないようにする。）サイドのチェンジの待機の位置は、ネットポストの左脇とし、選手通過後は元の位置に戻る。

16）副審のサインは２～３秒間程度静止の姿勢ですぐに下ろさないようにする。

**（５）判定について**

１）判定区分が重なる場合

区画線による判定区分が同じ場合は、副審または線審が正審に判定の資料を提供する。

この場合、正審は副審または線審の判断を尊重して判定する。

２）副審が間違って判定した場合

ア 副審が、間違った判定区分を間違って判定（二重の間違い）した場合

正審は「タイム」とコールし、副審を呼んで注意し、両ペアを集めて説明した後、「ノータイム」、

「コレクション」、正しい判定（レット、ノーカウントあるいは、判定の変更をする場合はイン）を

コールし、プレーを再開する。例：副審がベースラインのインのボールにアウトのサインを出した。

イ 副審の判定区分で、副審の判定が間違っている場合

正審は副審のサインどおりコールしてから「タイム」をかけて確認する。以降アと同様の手順で行

う。（例：副審が副審側のサイドラインのインのボールをアウトのサインを出した。）

３）誤った判定をした場合

誤った判定をしてしまったときは、必ずプレーを止めること。アンパイヤーの1人が誤ってプレ

ーを中止するサインをした場合も、必ずプレーを止めること。

**（６）サイン**

アンパイヤーは、プレー中「イン」のボールに対しては原則としてサインをしない。ただし、「イン」

のサインを行う場合は、プレー終了後プレーヤー及び観客が判定に迷うと思われる時に、「イン」であ

ることを知らせるために、掌を下にして片手を前方斜め下に差し伸べることが望ましい。

【審判規則第11条解説23の２】

**（７）採点票の記入について**

１）正審は、採点票に必要事項を正確に記入する。

コート番号及びプレーヤーの①番号、②所属、③選手氏名は進行委員が記入することを原則とし、

正審は必ず確認するとともに担当アンパイヤーの氏名及び開始時間を必ず記入する。

２）サービスのプレーヤー・レシーブのプレーヤーが決まればＳ・Ｒの部分を○で囲む。

３）サイドを選択したプレーヤー欄の下部の「サイド」を○で囲む。

４）ポイントの欄には、ポイントを得たのを○、失ったポイントは☓を上段左から右に記入する。

５）ゲームを終わるごとにそのゲームで得たポイント数を中央のスコア欄に記入し、そのゲームを得

た側の数を○で囲む。

６）マッチ終了後は（スコア）欄に得たゲーム数及び終了時間を必ず記入し、勝者の側のゲーム数を

○で囲む。

７）警告欄に該当プレーヤー及び監督に出した警告（イエローカードＹ・レッドカードＲ）を○で囲

み該当事項欄にその理由を記入する。（遅延行為、ゲーム中のコーチング、判定結果に不服等）

８）タイム欄に身体上の故障によるタイムの発生ごとに５を○で囲む。

９）マッチ終了の際、マッチ終了のコールをしてからプレーヤーとの挨拶をするまでに、時間的余裕

がない場合は、挨拶を済ませてから採点票の記入を完了するのが適当である。

10）勝者サイン欄に勝者選手のサインを記入してもらう。

11）正審が記入を完了した採点票は、コート主任とともに記入事項を確認し、進行委員に引き継ぐ。

**（８） 質問に対する対応手順**

１．競技規則第40条（異議の申立て等の禁止）［解説17］の４により、質問はチームの監督又はそ

　のプレーヤーのいずれかがアンパイヤーに申し立てることができる。ただし、ポイントの判定に

ついてはそのポイントに限る。なお、質問に対しては審判規則第14条により判定する。提訴については、団体戦では、監督またはプレーヤーが、個人戦ではプレーヤーができる。

２．アンパイヤーは質問の内容を確認の上、タイムをコールする。再度判定の結果を正審から通告

　する。

３．「明らかに○○です。プレーを再開します。」 ノータイムとコールとする。

４．当該通告に関するプレーヤーからの問い合わせは異議とみなし、競技規則第41条及び第42条の

規定により処理するものとする。

５．指示に従わない場合には「警告」（イエローカード）を与える。なお、「警告」が３回目にお

よぶ場合は「失格」（レッドカード）を与えることとなるので、レフェリーと連絡を取るように

コート主任等に依頼する。

６．質問の内容を確認し、判定に誤りがあれば勇気を持って判定の訂正を行うこととする。

７．ポイントカウントの誤りについてはそのゲーム内に、ゲームカウントの誤りについてはそのマ

　ッチ内に訂正をすることができる。

**競技規則（抜粋）の解説**

**１ プレーヤーの心得【第１５条】**

**２ マッチ**

プレーヤーは競技規則に従い、フェアプレーに終始しなければならない。【第16条第１号】

**３ サービス・レシーブ及びサイドのチェンジ【第３２条】**

**４ サービス**

(1) サービスは、サービスをするプレーヤーがトス（サービスをしようとして手からボールを放すこ

と）をした瞬間に始まり、ボールがコート（アウトコートを含む）に落ちるまでの間に、そのボー

ルをラケットで打った瞬間に終わるものとする。【第20条第１項】

(2) サービスは、正審のコールがあった後、レシーバーに用意ができていることを確認して、速やか

に行わなければならない。【第21条】

(3) コールをしないのにサービスをした場合は｢レット｣とコールし、レシーバーの用意ができている

ことを確認し、カウントのコールの後からやり直す。【第21条〔解説８〕】

(4) サービスは、サイドライン及びセンターマークのそれぞれの仮想延長線の間で、ベースラインの

外で行わなければならない。【第23条】

(5) サービスは、サーバーの１人が行い、ネットに向かってセンターマークの右側から始め、右・左

交互に対角線上の相手側サービスコート内にボールを打ち込む。【第24条第１項】

(6) ２人のプレーヤーは、同一ゲーム中に２ポイントずつ交替でサービスを行い、同一ゲーム内では

サービスの順序を替えることができない。【第24条第２項】

(7) サービスをしようとしてボールを２個同時にトスするか、又はサービスしようとしてボールを手

から放してそれを打つまでの間に、もう１個のボールを手から落とした場合には、フォールトとな

る。【第25条第１項第3号】

(8) サービスがレットとなった場合は、そのサービスをやり直す。【第26条第２項】

(9) サービスの場合の判定は、イン、フォールト、レット又はダイレクトのいずれかである。なお、

インのときアンパイヤーが誤ってフォールトの判定をした場合で、返球すべきプレーヤーがアンパ

イヤーのフォールトの判定の有無を問わず、レシーブをすることができないと認められるような実

質的に返球不可能な状態と正審が判断した場合は、その判定を訂正する。

【第26条〔解説11の3〕】

(10) ファイナルゲームのサービス及びサイドのチェンジ【第32条第２項】

(11) インプレー後にサービスの順序を誤ったことに気づいた場合は、誤りに気づいた次のポイント

　　のサービスから訂正する。それまでのポイントは、有効とする。【第33条第１項第２号】

**５ レシーブ**

1. レシーバーは、それぞれライトサービスコート又はレフトサービスコートのいずれかでレシーブ

するものとし、同一ゲーム中は替えることができない。【第29条第１号】

(2) レシーブにおいて失ポイントとなる場合は、有効に返球できない以外、次のとおりとする。

① サービスされたボールが直接レシーバーのラケット、身体又は着衣に触れた場合（ダイレクト）。【第30条第２号】

② 有効にサービスされたボールがツーバウンドする前に、レシーブするプレーヤーのパートナーのラケット、身体又は着衣に触れた場合（インターフェア）。【第30条第３号】

③ レシーブをするプレーヤーがレシーブを終わる前に、パートナーがそのサービスコートに触れた場合（インターフェア）。【第30条第４号】

④ （1）の規定に違反したことが発見された場合（インターフェア）。ただし、そのポイントに限る。【第30条第５号】

(3)ファイナルゲームのときは、最初にレシーブを行ったペアのいずれかのプレーヤーが、３ポイント目、４ポイント目のサービスを行う。また、最初の２ポイントのサービスをしたペアのいずれかのプレーヤーが、３ポイント目の相手方のサービスをレシーブするプレーヤーとなる。

【第32条第２項第３号】

**６ 判 定**

(1) イン又はアウトの判定は、ボールの落下点により行う。ラインに触れたものはすべてインとする。【第34条第１項、第２項】

(2) ラケット、身体、着衣がネット（仮想延長線上も含む）又はネットポストを越えたり触れたりした場合は、失ポイント。ただし、打球の惰性でラケット、身体又は着衣がネットを越えた場合、及び相手方アウトコートに触れても明らかな打球妨害（インターフェア）にならない場合を除く。

【第35条第5号】

(3) ラケット、帽子又はタオルなどが、プレーヤーから離れて直接ネットもしくはネットポスト

及びそのマッチのアンパイヤー、審判台、相手方プレーヤーのラケット、身体、着衣に触れ

たり、相手方コート入った場合は、失ポイント。ただし、ラケットは、一旦コートに落ちて

から触れた場合でも該当する。【第35条第10号】

(4) レシーブが終わった後、次のような場合はノーカウントとなり、第1サービスからやり直す。【第36条】

① アンパイヤーが判定を誤ったためプレーに支障が生じた場合。

② 不慮の突発事故、他のコートで使用しているボール（そのマッチで使用しているボールをそのマッチの直接関係者でない者が投げ入れたものを含む）又は、そのマッチに直接関係のない者の行為によってプレーが妨害された場合。ただし、正審が認めた場合に限る。

③ 失ポイントになることが双方のペアに同時に発生した場合。

④ その他、正審が特に必要と認めた場合。

**７ タイム【第３７条】**

**８ 禁止事項【第３８条】**

**９ 異議の申立て等の禁止【第４０条】**

**10 再判定【審判規則第１４条】・警告【第４１条】**

**11 失 格【第４２条】**

(1)レフェリーは、主催者の大会要項に示した参加条件に違反していることを発見した場合は、競技

責任者と協議し、該当するプレーヤーの失格を宣告する。

（レフェリーストップゲームセット・ディスクオリフィケーション）【第42条第１項】

(2)正審は、次のいずれかに該当する場合には、レフェリー及び競技責任者と協議の上プレーヤー

を失格とし相手方の勝ちを宣告する。（レフェリーストップゲームセット）【第42条第２項】

1. そのマッチへ出場の通告を受けたプレーヤーがコートに出場しない場合。
2. １マッチ中に、警告が３回目におよんだ場合。（レッドカード）

〔解説18〕

１ 第42条第２項第１号により、そのマッチへ出場の通告を受けたプレーヤーがコートに出場しない場合、審判規則第20条を適用し、アンパイヤーがコートに到着後、５分経過で警告１回とし、３回をもって失格とする（15分間経過で失格）。ただし、特別な理由で申告された場合は、その内容を審査し、レフェリーが決定する。

**13 マッチの中止と再開【第４４条】**

**14 退場又は注意の喚起**

(1) 大会委員長は、大会の運営上支障があると認められる場合は、関係者に注意を喚起し、あるいは退場させることができる。【審判規則第19条〔解説26〕】

(2) 大会委員長から退場を宣告された者は、当該大会に関する一切の権能を主張することはできない。【審判規則第19条〔解説26〕】

(3) 正審は、その担当するマッチの進行に支障があると認める行為等に対しては、関係者に注意を喚起することができる。【審判規則第19条】\_